

(様式1)

平成29年度 学校経営計画書及び最終評価報告書

金沢市立工業高等学校
校長 小酒 正明

1 教育理念

金沢市立工業高等学校は、金沢市及び地域産業の発展に貢献するために、質実剛健にして勤勉進取の気概を備えた有為なる人材を育成する。

2 教育目標

- (1) 高い教養とすぐれた技能を
- (2) 責任ある言動と協調の精神を
- (3) 勤労の喜びと健全な心身を

3 教育方針

- (1) 「ものづくり」の感性と工業の基礎・基本を身につけた創造性豊かな人材を育成する。
- (2) 部活動、生徒会活動、学校行事への積極的な参加を通じて、豊かな人間性や自主・自立の精神、ルール・マナーを守る人材を育成する。
- (3) 実習や課題研究を通して、働くことの意義や喜びを実感するとともに、社会の動きに関心を持つ人材を育成する。

4 今年度の重点目標

- (1) 教育内容や指導方法を工夫し、基礎基本の定着を図るとともに、論理的思考力や想像力を養う。
- (2) 生徒の人間力（規範意識、公共心、リーダーシップ等）の向上を図るとともに、安全や環境に配慮できる心を養う。
- (3) 学校行事、生徒会活動、部活動、地域活動に積極的に参加し、生徒、教職員の愛校心を高める。
- (4) キャリア教育（インターンシップ、資格取得等）を強化し、生徒の適性に応じた進路の実現を図る。

(様式2)

金 沢 市 立 工 業 高 等 学 校

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析(成果と課題)および改善策など
1 教育内容や指導方法を工夫し、基礎基本の定着を図るとともに、論理的思考力や想像力を養う。	① 家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図ることを目的に、課題の活用、家庭学習の時間調査を継続的に実施し、保護者との連携を密にして指導を行う。	【成果指標】 家庭学習時間を毎日1時間以上確保できる生徒の割合を50%以上にする。	家庭学習を毎日1時間以上取り組むことができた。 A. 毎日取り組んだ B. 十分とはいえないが取り組むことができた C. 少し取り組むことができた D. 全く取り組めなかった	C・Dの割合が50%以上の場合は方法を再検討する。	A: 6.8% B: 33.1% C: 45.1% D: 15.1%	昨年と比較すると、Dの割合が減少している。家庭学習の時間増加や習慣化できるようホームの協力のもと、保護者との連携を密にした働きかけを継続していきたい。
	② 朝自習、放課後・夏季休業中・定期考査前の補習等の充実を図り、学習習慣の定着を目指す。	【満足度指標】 家庭学習を含め、朝自習や授業以外の補習に積極的に取り組むことができた。	朝自習、補習等の学習指導で生徒が取り組むことができた。 A. 十分取り組むことができた B. 十分とはいえないが取り組むことができた C. 少し取り組むことができた D. 全く取り組めなかった	C・Dの割合が50%以上の場合は方法を再検討する。	A: 18.2% B: 46.0% C: 28.5% D: 7.3%	朝学習や補習が継続的に行われてきている。学力の定着に向けてさらに充実させていきたい。
	③ 習熟度別授業や少人数授業を展開し、学力の伸長を図る。	【満足度指標】 自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考えることで、問題を解決する力を実感できる。	学力が向上したと思う生徒の割合が全体の A. 60%以上であった B. 50%～59%であった C. 40%～49%であった D. 40%未満であった	C・Dの場合は方法を再検討する。	ものすごく向上した: 13.3% 少しは向上した: 52.3% 変わっていない: 32.2% 下がった: 2.1%	昨年と比べて学力が向上したと感じている生徒の割合が向上している。さらに効果的な学習につなげていきたい。
	④ 定期考査の欠点科目保持者をリストアップし、校内LANで教員間の情報の共有化を図る。赤点を複数科目保持する生徒については、担任が生徒面談および保護者に早期に連絡するよう教務部から働きかける。	【努力指標】 成績不良者の成績を生徒自ら及び保護者が自覚又は確認する機会を設け、教務部、学年主任、担任、生徒、保護者による面談を行う。	生徒、保護者に対して成績向上のための啓発活動ができた。 A 生徒に著しい変化が見られ、十分有効だった B 有効だった C 生徒、保護者ともに現状認識が足りない D 担任から生徒、保護者への意思疎通が十分なされなかった	C・Dの割合が70%以上の場合は指導方法を再検討する。	A: 9.2% B: 55.4% C: 32.3% D: 3.1%	情報を共有することで指導の場面が増えてきたと思う。担任だけでなく学年や各科目も協力して学力向上に向けた啓発活動につなげていきたい。
	⑤ 補習内容を学校全体が把握できるシステムを構築する。	【努力指標】 工業科別に実施する補習について、学校全体が周知、把握できるシステムを構築する。	各科が補習内容や実施時期を学校全体に周知できた。 A 十分周知された B 一応周知された C あまり周知されなかった D 周知されなかった	C・Dの割合が40%以上の場合は指導方法を再検討する。	A: 23.1% B: 63.1% C: 13.8% D: 0.0%	考査前だけでなく考査中の学習支援体制の周知や資格試験の補習の協力を求めるなど効果的に行われていた。
	⑥ 進路指導年間計画に基づき、各学年に応じた進路指導を展開する。特に学年会とは情報を共有し生徒の進路実現を目指す。	【成果指標】 就職決定率、進学決定率	就職決定率、進学決定率が A 両方とも98%以上 B 一方は98%以上、一方は95%以上98%未満 C 両方とも95%以上98%未満 D 上記以下	C, Dの場合は、取り組み方を再検討する。	A: 就職100%、進学98% (2/19現在)	集計結果は、非常に高い求人倍率と少子化が要因の一つであるが、進路指導部の取組方向が間違っていない証でもある。しかし、いつまでもこのような状況が続くことは考えられない。今後も地道な努力を積み重ねたい。
	⑦ 金沢市立海みらい図書館との連携・協働を図り、ものづくり教育の発信や図書委員会活動を活性化し、読書活動を推進する。	【成果指標】 図書館利用者、及び本の貸出冊数の増加と蔵書の充実を目指す。	図書館の年間貸し出し冊数、および利用者数がそれぞれ前年度数を上回ることを目指す。 A 上回った B ほぼ同じであった C 少し下回った D かなり下回った	Dの場合は、指導や取り組みの見直しを行う。 B以上を目指す。	C: 年間貸し出し冊数は1.1%減、利用者数は9.8%減であった。	図書館の貸し出し冊数及び利用者数は昨年度を少し下回る結果となった。来年度は貸し出し冊数及び利用者が増加するよに図書館環境および企画を工夫する。

(様式2)

金 沢 市 立 工 業 高 等 学 校

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析(成果と課題)および改善策など
2 生徒の社会・対人関係力(規範意識、公共心、リーダーシップ)の向上を図るとともに、安全や環境に配慮できる心を養う。	① 傘さし運転ゼロ運動により、雨天時にはカッパを着用して自転車通学をさせ、傘さし運転をさせない。	【成果指標】 傘さし運転およびカッパ未着用者を減少させる。	傘さし運転ゼロ運動により違反者が全校で A 一人もいない B 5人未満である C 5人以上である D 15人以上である	C・Dの場合は指導方法を再検討する。	C: (平均9.9人)	傘さしゼロ運動実施 11日 違反者 累計109人(1月現在) 違反者が昨年より増えてしまった。内訳を見ると1年生が2・3年生に比べ圧倒的に多い。入学当初からしっかりと指導をする必要がある。
	② 校内での携帯電話使用をさせない。	【成果指標】 携帯電話使用する生徒を減少させる。	校内での携帯電話使用違反者が、クラス毎の延べ人数(半期) A 5人未満 B 6人～10人未満 C 10人～15人未満 D 15人以上	C・Dの場合はクラス毎に指導する。	C: (前期12人)	携帯電話使用で、1日特別指導を受けた者の人数が前期は12人、後期は2月現在で9人となっている。 特に1年生で、クラスで集団でゲーム等をしてきた事案が2件あり人数も増えてしまった。 1年生を入学当初からしっかりと指導する必要がある。
	③ 遅刻をさせない指導の徹底を図る。	【成果指標】 一日の遅刻者数を減少させる。	一日平均遅刻者数(年間)が A 1人未満 B 1人～2人未満 C 2人～3人未満 D 3人以上	C・Dの場合は指導方法を再検討する。	B: (前期平均1.17人)	後期は1月以降の大雪で交通機関が乱れて、遅刻の線引きが難しくなったので、前期のデータで評価した。遅刻者126名 授業日108日 昨年並みを維持はしたが、より一層の基本的生活の定着をはかりたい。
	④ 自ら進んで挨拶を行う	【努力指標】 主体的に元気よく挨拶する生徒を増やす	主体的に挨拶する生徒が A 80%以上 B 70～79% C 60～69% D 60%未満	70%未満の場合改善を検討する	自ら進んで挨拶を しっかりできた: 55.0% だいたいできた: 42.5% あまりできなかった: 2.5% ほとんどできなかった: 0.0%	しっかりできたと、大体できたを合わせると97.5%になり、目標は達していると思われる。 しかし、玄関指導の様子では、声が小さい生徒や、できない生徒もおり、日頃から指導をしていきたい。
	⑤ ゴミの持ち帰り・ゴミの少量化・分別の徹底を図る。	【努力指標】 クラスや各部活動が中心となり学校全体で、ゴミ分別や持ち帰りの意識を高める。	生徒がゴミの持ち帰りや分別を行う事ができたか。 A. 完璧にできた B. だいたいできた C. あまりできなかった D. ほとんどできなかった	C・Dの割合が20%以上の場合は、取り組み方を再検討する。	A:56.6% B:41.7% C: 1.1% D: 0.6%	良好な結果であるので、今後も指導を継続する。
	⑥ クラスに保健室・教育相談室の紹介をする。1年オリエンテーションで具体的に説明する。	【努力指標】 生徒が充実した学校生活を送ることができる。	保健室、教育相談室は体や心の健康について利用や相談が A できる B 必要な時はできる C あまりできない D できない	A・B合わせて50%未満の場合は、取り組み方を検討する。	A:22.0% B:54.2% C:13.8% D:10.0%	目標は達成しているが、約1/4の生徒が否定的回答であるので、これらを減らす方を考える必要がある。
	⑦ 実習による事故を起こさない。	【努力指標】 実習を始める前に安全教育を行う。	事故の発生件数が A なし B 1～3件 C 4～6件 D 7件以上	Aでなければ安全教育のあり方を再検討する。	B:(1件)	注意喚起、環境改善、KY教育の徹底により、ゼロ災害を目指す。

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析(成果と課題)および改善策など
3 学校行事、生徒会活動、部活動、地域活動に積極的に参加し、生徒、教職員の愛校心を高める。	① 運動部、文化部の加入率を高めるとともに、各種大会等での上位入賞を目指す。	【努力指標】 引き続き、高い部活動加入率の維持を図る。	全学年の部活動加入率が A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70～80%未満 D 70%未満	C以下の場合は次年度の改善策を検討する。	A: 加入率91.2% (運動部471、文化部184、未加入63)	部活動加入率が高いといえるが、辞めても他の部活動への参加を促すなどの手立てが必要である。
		【努力指標】 1年生年度当初の部活動加入率の向上を図る。	1年生年度当初の部活動加入率が A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70～80%未満 D 70%未満	C以下の場合は次年度の改善策を検討する。	A	1年生年度当初の部活動加入率は100%に近いが途中で辞めてしまう生徒もみられる。最初の部活動を辞めた後に再び他の部活動に加入しやすい手立てを考える必要がある。
		【成果指標】 春と夏の全国大会出場部活動数の増加を図る。	春または夏の全国大会出場できた部活動数が A 7部以上 B 4部～6部 C 1部～3部 D なし	Dの場合は対策を考える必要がある。	B: 水球部・相撲部・剣道部・ボウリング部・バドミントン部・弓道部	水球部のインターハイ2連覇などをはじめ輝かしい活躍があった。
		【満足度指標】 生徒が達成感をもって活動している。	生徒の部活動に対する充実感が A 十分満足している B ほとんど満足している C あまり満足していない D 満足していない	A・Bの割合が70%未満の場合は、再検討する。	A:36.0% B:38.7% C:13.4% D:11.9%	部活動に対して充実感を感じている生徒が70%を超えているが、満足していない生徒の声も集約していきたい。
	② 応援練習及び高校相撲金沢大会を学校をあげての行事として設定し、一丸となって応援することで学校の帰属意識や愛校心を醸成させる。	【努力指標】 自ら進んで応援練習に取り組んだ。	応援委員の参加率が A 100%である B 90%である C 80%である D 80%未満である	A・B合わせてが70%未満の場合は、取り組み方を検討する。	B	高校相撲本番では大変熱く長い1日をよく頑張っていたが、日ごろの応援練習ではクラスによって参加率に差があるようにも感じた。各担任とも協力し、参加率を高めるようにしたい。
		【満足度指標】 相撲大会本番で同じ学校に学んでいるという生徒の意識が高まった。	応援に参加して A 大変盛り上がった B 盛り上がった C 盛り上がらなかった D まったく盛り上がらなかった	C・D合わせて30%以上の場合は取り組みを再検討する。	A:54.2% B:40.4% C:3.8% D:1.5%	生徒が一丸となり、本校への帰属意識や愛校心も高まったと思われる。応援に参加して、金市工生としての誇りや連帯感が持てたかという質問に90%以上が持てたと答えている。
③ 金工祭において、生徒会・クラス・文化部・工業科がそれぞれ主体となって展示、イベントを実施する。	【満足度指標】 自ら進んで金工祭に参加し、取り組み意識が高まった。	金工祭に取り組む意識が A 十分が高まった B 少し高まった C あまり高まらなかった D ほとんど高まらなかった	C・D合わせて30%以上の場合は取り組みを再検討する。	A:58.9% B:37.4% C:2.7% D:1.0%	クラスの団結をはかるクラス企画に90%以上が協力してやれたと答えている。来年度は科を超えたつながりが持てるような取り組みを目指していきたい。	
④ ボランティア活動を推奨する。(海岸清掃等)	【努力指標】 夏の海岸清掃の参加者を増やす	海岸清掃ボランティア参加者が A 100人以上 B 80～100人 C 60～80人 D 60人未満	C・Dの場合は、取り組み方を検討する。	A	多くの生徒が積極的に参加してくれたが、海岸でのボランティア作業は危険を伴うため、来年度からは外部団体のボランティアへの参加を促していきたい。	
⑤ 全校集会で校歌斉唱を実施する。	【努力指標】 自発的に大きな声で校歌斉唱する生徒を増やす。	自発的に校歌斉唱できる生徒が A 80%以上である B 70%～79%である C 60%～69%である D 60%未満である	C・Dの場合は、取り組み方を検討する。	全校集会で校歌を しっかり歌った: 12.3% まあまあ歌った: 64.6% あまり歌っていない:16.9% 全然歌っていない: 6.0%	応援練習や相撲大会では、しっかり歌っていた。全校集会でも継続して、自発的に校歌斉唱ができる生徒を増やしていきたい。	
⑥ 高校生ものづくりコンテスト大会(旋盤、電気工事、電子回路組立、木材加工、測量等)及びそれに準じるコンテストにおいて上位入賞を目指す。	【成果指数】 各種コンテスト大会においての上位進出を目指す。	今年度のコンテスト大会において A 全国大会入賞 B 北信越大会(ブロック大会入賞) C 県大会入賞 D 入賞なし	Dの場合は、指導や取り組みの見直しを行う。 B以上を目指す。	A: [機械科] 全国ソーラーラジコンカーコンテスト:2位3位 アムトロボット:全国大会出場 [電気科] ものづくりコンテスト電気工事:北信越大会出場 [電子情報科] ものづくりコンテスト電子回路:北信越大会出場 [建築科] ものづくりコンテスト木材加工:北信越大会2位 [土木科] ものづくりコンテスト測量:北信越大会2位	来年度も引き続き、全国大会入賞を目指す。	

(様式2)

金 沢 市 立 工 業 高 等 学 校

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析(成果と課題)および改善策など
4 キャリア教育(インターンシップ、資格取得等)を強化し、生徒が望む進路に進めるよう進路意識を高める。	① 就業体験学習、工業人養成企業実習に積極的に参加し、進路選択に役立てる。	【満足度指標】 多くのことも学べるように積極的に活動している。	就業体験学習、工業人養成企業実習に参加し A 進路意識が大いに高まった B 進路意識が少し高まった C 進路意識はかわらなかった D 進路意識を高めるに至らなかった	C、Dの場合は事後指導をしっかりと行い、次年度の事前学習について検討する。	A…61.9% B…36.5% C… 1.6% D… 0.0%	A B合計で98.3%の生徒が進路意識が高まったと回答。生徒の進路選択・進路実現に向け、十分繋がりとなり成果のある取組みと言える。
	② ジュニアマイスターを推奨し、多くの資格取得に挑戦する意識付けの取り組みを推進する。	【成果指標】 資格取得によるジュニアマイスター受賞者の人数を増やす。	3年卒業時のジュニアマイスター受賞者の数が A 80人以上 B 60人以上80人未満 C 40人以上60人未満 D 40人未満	Dの場合は、取り組み方を再検討する。	C…49人	昨年度に対し、今年度受賞者は11.3%の増加。
	③ 英検・漢検・数検などの資格取得に対する意欲を高め、合格率も上げる。	【努力指標】 資格取得に向け生徒の意識を高め、資格受検者を多くし、さらに合格率を上げる。	資格受検者の年間延べ受検者数を増やし、さらに合格率を上回ることを目指す。 A かなり上回った B 少し上回った C ほぼ同じであった D 下回った	Dの場合は、指導や取り組みの見直しを行う。 B以上を目指す。	数検、英検は受検者数、合格者数ともに増加したが、漢検は受検者数および合格者数が昨年度並みであった。	資格取得に意欲的に取り組むよう、各教科で具体的な目標と方策を設定して指導しなくてはならない。